

仏の十大弟子(完)

お盆を前に新型コロナウイルス感染症が勢いを増しています。第二波と言っているのでも、僧侶が感染すると仏事(年会忌法要や通夜・葬儀など)が行えなくなりご門徒にご迷惑をおかけします。感

舍利弗(智慧第一) 釈尊の教えを一番理解し、後継者とも言われています。釈尊よりも早くお亡くなりになりました。

目連(神通第一) 目鍵連とも言います。舍利弗とは幼なじみで、出家の時も、亡くなる時も一緒だったといわれています。

大迦葉(頭陀第一) 厳しい修行で衣はいつもボロボロだったそうです。釈尊入滅直後に行われた仏典編纂会議(第一結集)の責任者でした。

須菩提(解空第一) 他人と争わない姿勢が周囲の尊敬を集め、在家信者にも人気の比丘だったと言われています。

富楼那(說法第一) 最初の五比丘の一人です。説法することに定評があり、好んで辺境の地に赴き説法を行いました。

迦旃延(論議第一) 釈尊の説法の内容をわかりやすく簡略に話すことに長け、釈尊からも称賛されました。

阿那律(天眼第一) 釈尊の説法中に居眠りしたことを悔い、睡眠を極度に取らない生活を送ったため、失明してしまいました。

優波離(持律第一) 厳しい戒と律を守り続けました。釈尊入滅直後の仏典編纂会議では、僧団規則のまとめを担当しました。

羅睺羅(密行第一) 釈尊の息子です。舍利弗と目連に学びました。釈尊の「わが子というおごりを捨てなさい」の言葉を終生守りました。

阿難(多聞第一) 阿難陀ともいいます。釈尊の世話をしており、説法を一番多く聞いていたと称賛されます。

※ お釈迦さまは仏典を編纂されませんでした。弟子が集まり開いた仏典編纂の会議を結集といいますが、結集は三回開かれました。



さて、寺報五月号から三回にわたって釈尊(釈迦)の十大弟子の中三人を、簡単にではありますが紹介しました。今月号ではすでに紹介した三人も含めて十人全員をさらに簡単に紹介します(写真は割愛させていただきます)。

法語の世界

《原文》

法敬申され候ふ。たふとむ人より、たふとがる人ぞたふとかりけると。前々住上人仰せられ候ふ。面白きことをいふよ。たふとむ体、殊勝ぶりする人はたふとくもなし。ただありがたやとたふとがる人こそたふとけれ。面白きことをいふよ、もつともものごとを申され候ふとの仰せごと候ふと云々。

『蓮如上人御一代記聞書』二百五十一

《現代語訳》

法敬坊が、「ご法義を尊んでいる人よりも、ご法義を尊んで喜ぶ人のほうが尊くおもわれます」と申しあげたところ、蓮如上人は、「おもしろいことをいうものだ。ご法義を尊んでいるすがたをあらわにし、ありがたそうに振舞う人は尊くもない。ただありがたいと尊んで素直に喜ぶ人こそ、本当に尊いのである。おもしろいことをいうものだ。法敬は道理にかなっていることをいった」と仰せになりました。

2020年秋季彼岸会法要について

新型コロナウイルス感染症の拡大に歯止めがかかりませんが、秋の彼岸会法要を下記のとおり行います。なお、今後の感染状況によっては中止することもあります。その場合は9月号の寺報でお知らせします。

記

日時	9月22日(火) 午前10時～
場所	金光寺本堂
勤行	正信念仏偈(草譜)
講師	未定
その他	法要後のお齊については新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、各自にお渡しし、自宅でお召し上がりいただきます。

浄土真宗本願寺派宮崎別院がこの度ホームページを開設されました。下のQRコードを読み込むか、下記URLを入力して、ホームページに入室してみてください。パソコン、スマートフォン、タブレットいずれでも入室できます。

<https://hongwanji-miyazaki.com>

